

- ・☆マークのついたタレントは作品に派遣されると捨て札になります。それ以外のタレントは再び各プレイヤーの前へ戻ります。
- ・手番プレイヤーは一切、作品を制作しなくてもかまいません。
- ※1手番にQE社とCP社、両社の作品にタレントを派遣することはできません。

1. 投資フェイズについて

- ・手番プレイヤー以外の全プレイヤーはチェンジフェイズの前に「手番プレイヤーのプレイ内容」を予想し、投資できます。
- ・投資する場合、「手番プレイヤーはタレントと契約する」という場合は、Yukidama Agencyのロゴが描かれたおカネカードを、「QE社の作品を制作する」という場合は、QE社のロゴが描かれたおカネカードを、「CP社の作品を制作する」という場合は、CP社のロゴが描かれたおカネカードを手札から好きなだけ組み合わせを選び、自分の前に伏せます。
- ・投資は手番プレイヤーの左隣のプレイヤーから時計回りに行います。
- ・手番プレイヤー以外の全プレイヤーが一切、投資しなくてもかまいません。

5. 利益回収フェイズ

- ・作品制作フェイズ終了後、投資していたプレイヤーは伏せていたおカネカードを表返します。描かれたロゴが手番プレイヤーのプレイ内容と違っていた場合、そのおカネカードは捨て札になります。

5

- ・内容が手番プレイヤーのプレイ内容と一致していた場合、次の方法で利益を回収します。

【①を投資していた場合】

そのカードを捨て札にし、③のおカネカード1枚を獲得します。もしくは投資していたおカネカードをそのまま自分の得点カードに加えます。この行為は得点化と呼ばれます。

【③を投資していた場合】

そのカードを捨て札にし、⑥のおカネカード1枚を獲得します。もしくは投資していたカードを得点化します。

【⑥を投資していた場合】

そのカードを得点化します。

- ・利益の回収は手番プレイヤーの左隣のプレイヤーから時計回りに行います。
- ・投資していたプレイヤーの利益回収が終了した後、もしも手番プレイヤーがこの手番で「タレント」「QE社」「CP社」のカードをどれも獲得していなかった場合、おカネカードの山札から①カードを2枚引きます。
プロデューサーと言えど、たまにはアルバイトをする事もあるのです。

6. カード補充フェイズ

- ・手番プレイヤーは場に並んだ映画カードの枚数が5枚になるよう山札から補充します。山札が足りない場合は、捨て札をまぜて再び山札にしてください。
- ・手番プレイヤーが左隣のプレイヤーに移ります。以降、時計回りにゲームを進めます。

6

○終了条件と勝利条件

- ・「5. 利益回収フェイズ」が終わった時点で、各プレイヤーの得点カードを確認します。その時に得点カードの合計得点が「15点以上」であるプレイヤーがいた場合、「6. カード補充フェイズ」を行わず、ゲーム終了となります。
- ・以下の点数を合計し、最も値の高かったプレイヤーが勝利者となります。最も値の高かったプレイヤーが複数いた場合は、作品カードをより多く獲得したプレイヤーが勝利者となります。

1. 獲得した作品カードに書かれた勝利点
2. 契約したタレントカードの能力による勝利点
3. 得点化したおカネカードに書かれた勝利点(①は1点、③は3点、⑥は6点)
4. 残った所持金③ごとに1勝利点

○ルールの補足

- ・ほぼ起こる事はありませんが、おカネカードの山札も捨て札もない状況になった場合、そのおカネカードは獲得できなくなります。
- ・「4. 作品制作フェイズ」にて両方の会社の作品にタレントを派遣することはできません。選択できるのは、QE社の作品カード1枚以上、もしくはCP社の作品カード1枚以上、もしくはまったく派遣しない、のいずれかのみです。

7

○原作ルールについて

- ・本ルールは2012年に株式会社コザイクから出版されたゲーム『フィルムフィクサー』の作者・川上亮の承諾を得た「改良ルール」となります。
ぜひご賞味ください。

○ルール変更のお願い

- ・ゲーム終了条件を満たした時、すぐにゲームを終了させず、ゲーム開始時のスタートプレイヤーの右隣に座っているプレイヤーまで手番を行ってから終了してください。そのプレイヤーが条件を満たしたのなら、すぐさまゲームは終了します。
エンドカードをスタートプレイヤーマーカーとして使用してください。

8